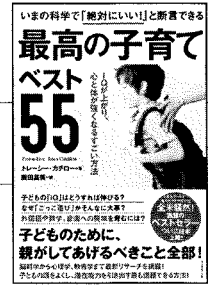
本著は、実践的な子育てについてのアドバイスを、科学的な実験・研究データ等に基づいて描かれたものである。ジャーナリストである著者は、「子育ては、大変だけれど楽しくて笑いがいっぱい」という育児体験を通して、「脳を育成する」ための具体的な方法を読者に示している。

子どもの「脳」を伸ばすためには、「子どもと信頼関係を築くこと」「言葉のシャワーを浴びせかけること」が大切であることを主張している。そして、直ぐに使える内容が挙げられている。例えば、「幼児の言語力を伸ばす『4つの方法』」では、①うながす（本について子どもに何か言わせる。たとえば鳥を指さして、「これはなあに？」、②評価する（子どもの答えを評価する。子どもが「とり」と答えたなら「正解！」、③ふくらませる（言い換えや情報の追加によって、子どもの答えをふくらませる。「これはハトよ」）、④くり返す（ふくらませた情報をくり返させる。「ハトって言ってみて」）というテクニックと『おやすみゴリラくん』『漂流物』の絵本教材等が紹介されている。

また、日本では2018年度から小学校3年生から英語が導入されるが、筆者は、「2つの言語」で子どもの脳を開花させる」のテーマで、モノリンガルの環境の子ども達とバイリンガル環境の子ども達を比較した研究を挙げて「バイリンガルの環境の子ども達は「創造性が高いこと」や「実行機能」のスキルが上がること」等を述べ、「7歳までの子どもは、第二言語を、ネイティブスピーカーとほぼ同等の堪能さで獲得することができる」ことを主張している。

この他にも、子どもの日常生活で親が気をつけてあげたいことや工夫することとして「記憶力と集中力が上がる食べ方、寝方」「思考力と想像力を磨く楽しい方法」や子どもへのしつけ方として「叱るより、ルールでスキルを身につける」等、家庭教育として示唆に富んだ内容で興味深い。

（愛知教育大学教授・高橋美由紀）



いまの科学で「絶対にいい！」と断言できる
最高の子育てベスト55

トレーシー・カチロー　著、鹿田昌美　訳
1728円　ダイヤモンド社
☎03-5778-7200